

インド、6会合連続の利上げを決定 インフレ抑制に向け金融引き締めを継続

インド準備銀行（中央銀行、RBI）は2月8日の金融政策決定会合において、政策金利を0.25%引き上げて6.50%にすることを決定しました。2023年初めての金融政策決定会合でしたが、昨年5月の会合以来6回連続の利上げとなります。RBIの動向、市場の反応および今後の見通しについて解説いたします。

➤ 6会合連続の利上げを決定、インフレ抑制を優先

- RBIは定例の金融政策決定会合を開催し、2月8日に政策金利であるレポ金利を0.25%引き上げることを決定し、6.50%としました。2023年初めての金融政策決定会合でしたが、昨年5月の会合以来6回連続の利上げとなりました。今回の利上げについては市場予想通りとなり、会合後に公表された声明文では、金融政策委員会メンバー6人のうち4人が今回の利上げを支持したことが示されました。
- インド経済の先行きについては、長引く地政学的な緊張、世界的な金融引き締め、外需の減速などの逆風の一方で、インド国内の経済活動は相対的によく持ちこたえており、内需に支えられて底堅く推移すると予想した上で、2023年度（2023年4月～2024年3月）の実質GDP（国内総生産）成長率見通し（前年度比）を6.4%としました。
- RBIは2023年度の消費者物価指数（CPI）上昇率（インフレ率、前年比）見通しを5.3%としました。インドでは12月のインフレ率が前年同月比5.72%となり、前月の同5.88%から鈍化しRBIが目標（2～6%）の上限とする6%を2ヵ月連続で下回っています。RBIはインフレは緩やかになる見通しではあるものの、引き続き抑制が必要であり、金融政策によって中長期的な成長を支えるというスタンスを示しています。

➤ 市場の反応と今後の見通し

- 今回の利上げは概ね市場予想の範囲内であり、2月8日の市場の反応は限定的で、株式、債券、為替共に小動きとなりました。（10年国債利回りは前日比+3bps（+0.03%）、SENSEX指数は前日比+0.6%）
- 今後の金融政策はインフレの動向がより重要となります。インフレ率は野菜価格の下落を反映して伸び率の鈍化が見られていますが、コア・インフレ率（食品・エネルギー除く）は特にサービス業を中心に価格の上昇圧力が見られているため、注視が必要です。（次回金融政策決定会合は2023年4月に開催予定）

【政策金利*とインフレ率**の推移】

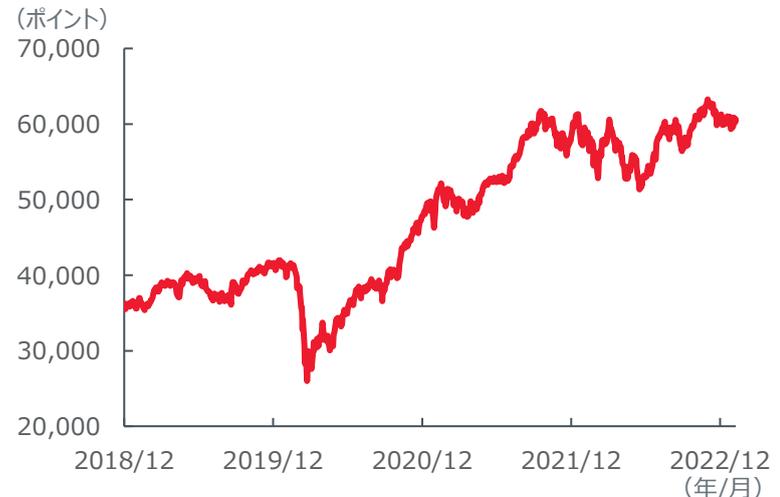
（2018年12月31日～2023年2月8日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
*レポ金利、**消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）、同項目のみ月次。新基準（2012年=100）による統計を使用。2022年12月まで。

【SENSEX指数の推移】

（2018年12月31日～2023年2月8日）



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
※配当無し（プライス）、インドルピーベース。

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルーデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシュアランス社とは関係がありません。

＜当資料に関してご留意いただきたい事項＞ ○当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。○当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。○当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。○当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。○当資料では、個別企業や業種・テーマに言及することがありますが、当該企業の株式や業種・テーマについて組入の保証や売買の推奨をするものではありません。○当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。